

アジアのサッカーは急速に力をつけていた(下)

東川から世界へ—ミャンマーのJリーグ海外視察研修会に参加して

コンサドーレ札幌アカデミーグループコーチ兼コンサドーレ旭川U-15コーチ 松山育司

(前号からの続き)

世界大会出場を賭けた準々決勝の対戦相手は、前評判は高くないものの勝ち上がった北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)でした。

技術も戦術も決して高くありませんが、精神力の強さでは群を抜いています。決してあきらめないプレースタイル、プレーの激しさは脅威。しかし日本はアジアトップレベルのテクニクとチーム力があり、勝利に問題なし、と考えていました。

立ち上がりから日本がボールを保持する時間が多く、ゴールチャンスは何回も作れる展開。しかし決め切れません。

経験のある選手ならプレーしながら試合の流れを感じ、状況に応じて対処することができたでしょう。しかし18-19歳の選手では、まだ「試合を読む力」が足りません。そんな時、犯してならないファール。FKから北朝鮮選手の勢いを止められず失点して



張元龍(右)とミャンマー代表監督の再会を祝った松山さん

しまいました。

無念の敗退

後半、日本は追いつこうとパワー全開で攻めまわります。しかし球際の強さ、厳しい接触プレーでことごとくチャンスが潰れ、残り10分を切つてやっと同点。北朝鮮は延長戦で選手がバタバタ倒れて明らかな時間稼ぎ。日本は決勝点を奪う力が残っていませんでした。結局PK戦に敗れ、またもベスト8の壁。

私は今回の視察を通じていろいろなことを発見しました。一つは、アジアのレベルが急速に上がっていること。二つ目は、日本選手は個人技、戦術に優れ、常に試合を優位に進めることは

できるが、チームとしての勝負強さに欠けることです。8年後の東京オリンピックに向けて、Jリーグクラブが今後どのように選手を育成すべきか、多くの示唆を受けた大会でした。

今、アジア各国は急速にサッカーの力をつけていま

す。中東・カタルは惜しみなく資金を投資し、国を挙げて選手、チーム強化しています。

経済発展著しい中国、ベトナム、タイは、経済発展のレベルに並行してサッカーレベルが上がっています。ベトナムは昨年5月から、コンサ札幌の三浦俊也元監督をナショナルチーム監督として招へいし、リオデジャネイロ五輪出場(2016年)を目指していました。

中国スーパーリーグ(J1相当)傘下のクラブチームアカデミー「杭州绿城」は、コンサ旭川の賀谷英司元監督を昨年3月からU-15監督として招き、日本を越えるためのサッカー指導を始めています。

人工芝サッカー場オープンで期待増す 町内公式戦開催と選手育成

東川町にもいよいよ待望の人工芝サッカー場が完成しました。

待望の人工芝サッカー場は、東川小学校新校舎の北側にあり、雪解け後のこけら落としを待つばかり。各種サッカー大会はもちろん、選手育成の場と



フットサル全国大会で全国3位に貢献した東川中3年生の3人(左から渡辺、阿部、板谷君。阿部君は3得点の大活躍)

して広く活用が期待できます。

人工芝上ではボールがイレギュラーバウンドしないため、高いサッカー技術、戦術の習得が容易です。ハイレベルなトレーニングが可能になるのです。

1月、愛知県で開催された全日本ユース(U-15)フットサル大会で、東川中3年生トリオが全国3位という快挙に大いに貢献してくれました(18ページ、各種大会成績参照)。

幼少時からサッカーを始め、コンサ旭川U-15チーム選手として出場した渡辺友基君、阿部深輔君、板谷智志君3人のこれからの活躍がとも楽しみます。素晴らしい育成環境、そして今回の視察経験を生かし、地元東川町からのトップ選手育成に貢献したいと思っています。「東川町から世界へ」と夢は膨らみます。